ュー・解説資料の整備，教育機器の活用等により，来山者の多様化した中で，それぞれの目的に即したユニークな野外博物館活動を推進しつつあり，その効果を期待している。

猿害が生じる要因の分析 ー木曽研究林の例ー

田中　進（マカク研究会）

課　題　2

ニホンザルの群れの遊動時における群れ内の個体間関係

陸　　斉（東京農工大・農）

(1) ニホンザルの群れの移動が群れ内のどのような個体間関係に支えられて起こるかを，集団移動時の個体の行動の観察，記録とその分析により明らかにすることを試みた。(2) 集団移動時のリーダーの有無及びリーダーシップをとる行動の再吟味を試みた結果，リーダーの存在を行動上の事実から直接立証することは不可能であることがわかった。さらに従来リーダー・フォロワー関係と見なされてきた先行・追随の交渉は，すべて追随側の追随行動によって生じることがわかった。また優位のおとなオスの周囲にメスやこどもが多数集まる現象は群れ内の諸団体の緊張が高まるような状況下に限り，これは個体の他団体への影響の強弱一般の問題でありリーダーシップの問題ではない。日常の平静な状況下では群れ内の個体は分散し，おとなメス同士，おとなメスとこども，こども同士がまとまって相互に追随しあいながら移動する。特に3,4歳オスは行動範囲が広く，おとなメスや他のこどもに追随したり群れの周辺で集団の動きに追随することがあるなどその時々の状況に応じて移動のし方も多様であった。(3) 先行・追随交渉の基本的パターンは，《a》他個体が動き出すとそれに追随する，《b》通りすぎる他個体に追随する，《c》前後して交互に追随しあう，の単純明瞭な3種類以外にはなく，これは群れ内のどの個体も関与するきわめて一般的な交渉であった。それが複雑多様な社会的場及び文脈上に展開する時に複雑で多様な様相を呈した。(4) 先行・追随に伴なって他個体の動きを目で追う，辺りを見回す，遠くを注視するなどの周囲の他個体の動静に注意を向ける行動が観察された。(5) 他個体に追随する行動傾向一般は群れの移動時に限らず遊動中の様々な交渉場面でみられ，異なる行動範疇に属する先行・追随が集団移動のきっかけになることもあった。このことは集団移動の様子を明らかにするには他の異なる行動範疇に属する先行・追随も集団移動時の先行・追随に関わる諸行動と比較・検討をし統一的に理解する必要があることを示している。

志賀A_1，A_2，B_2，C群の戸籍簿作り

常田英士（地獄谷野猿公苑）

志賀高原の横湯川流域に生息するニホンザル4群のうち，今年度は主に，B_2群とC群の個体カードの作成を目的とした。

B_2群は近年食害を起こしており，食害防止のため，威かく，追い上げ作業を行っている。威かくの効果が出て来ただけ，サルは人を見ると逃げるようになってきている。本調査においても，猿害防止の方を優先させたので，数頭のオスの個体識別ができただけで，以前から個体識別してあるオトナメスの存否や出産等については確認ができなかった。

C群については大部分の個体の個体カードを作成した。

かつて横湯川流域の各群にいたことのある個体識別されたオスについても個体カードを作成し，各オスがいつどの群れにいたか，記録整理した。

作成したカードは約400枚である。

課　題　3

ヤクニホンザルの自然群における食をめぐる群内競争の社会生態学的研究

丸橋珠樹・大井　徹（京大・霊長研）

昨年度の共同利用研究では，屋久島国割岳西斜面の照葉樹林に互いに遊動域を隣接して生息するアルク群と本山A群との間には，食物メニューや